

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和5年12月28日

事業所名 チャイルドサポートうらそえ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8	1	十分な広さ	
	2	職員の配置数は適切である	7	2	・足りない時などは声をかけあっている ・曜日でスタッフの調整をおこなっている	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	3	6	・利用児が困らないように個人の持ち物は置く場所を決めている	・本人にわかりやすい空間作りはまだ足りない ・段差が多い
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8	1	・週末には普段できていない場所の清掃を行っている ・毎日の掃除、除菌に注意している	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	3		・振り返りから改善についてもう少し話し合いをすすめていきたい
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	3		
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	わから ない 3		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	わから ない 4		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9		・午前中などに研修の時間を設けている ・外部講師の研修を行っている	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7	2	・モニタリングを行っている	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	わから ない 4		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5	わから ない 4		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7	2	・昼のミーティングでモニタリングを行っている	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	2		経験値の高い職員に負担が集中している
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	わから ない 1	・活動をスタッフみんなで考えている ・ネットを通して情報収集し色々な活動を取り入れている ・月に感銘遊びは実施している	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
16		子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせせて児童発達支援計画を作成している	7	2	・個別活動を取り入れている	・個別や集団の活動の組み合わせができるようにしていきたい

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9		・朝か昼のミーティングで行っている	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	6	・当日中はできないが翌日のミーティングで行っている	・当日での振り返りが難しい
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9			
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	9			
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	1		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	5(わからない2)		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	6	3(わからない2)		
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	7	1	・マニュアルが作成されている	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9			
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	2		
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	4(わからない3)		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	3	6		・アポをとり散歩活動の際に交流するなどの工夫をし機会を増やす
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		9		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9		・保護者会や送迎などで情報共有をおこなっている	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	8	1	・外部講師でペアトレを行っている	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	わからない1		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	9			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	1	・スタッフが得た情報を共有している(ミーティングや共有ノートにて)	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8	1	・保護者やイベントを行っている	・普段の活動を保護者が参加出来るオープンデイみたいな日をつくりたい
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8	わからない1	・相談を受けた職員が上司に報告し引き継ぎしたり助言を受け対応している	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	わからない2	・活動表や保健だよりは配布している	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	8	1		
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	1		・保護者と関わるのが少ないので少ない時間を有効に活用する
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6	3		
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8	1	・マニュアルは職員の見える場所に貼っている ・医療ケア児のシュミレーションを行っている	・安心・安全に対応できるマニュアルの作成が必要
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9		・子供達と避難訓練を行っている	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	9		・看護師主体で勉強会をおこなっている ・てんかんの利用児は特に注意をはらい観察し必要な場面を捉えて保護者と共有している	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	1		
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9			
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9		・外部講師の研修がある ・Zoomでの研修がある	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	9			

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。